

コノハナロード市民応援隊

4/9 国交省延岡河川協力団体に指定

国土交通省延岡河川国道事務所（田浦峰星所長）は、協働して地域に親しまれる河川づくり河川協力団体に、延岡市野地町の五ヶ瀬川右岸堤防の「景観づくりを続けるNPO法人コノハナロード延岡市民応援隊」（松田庄司代表）を指定した。

河川協力団体は平成25年に河川法が改正された際に創設された制度。申請のあった団体の活動実績などを審査し、国土交通省が指定する。九州管内では44団体が指定されている。



河川協力団体の指定を受けたコノハナロード延岡市民応援隊の皆さん

同応援隊は同21年7月に活動を開始し、同30年11月にNPO登録。五ヶ瀬川右岸に延びる通称コノハナロードへの河津桜

や菜の花、コットンなど植物の植栽、環境保全活動に取り組み。同26年から花々を楽しむ観光イベント「延岡花物語」のメイン会場を飾り、多くの人々に憩いの場を提供している。指定証授与式はこのほど、延岡市大賞町の同事務所であり、松田代表は「同窓生のあるさどへの恩返しをしたい」との思いで始まった。五ヶ瀬川とは切っても切れない関係がある。他の団体とも連携して五ヶ瀬川が市民に愛してもらえる川となるように頑張っていきたい」と話した。

2019.4.9

お接待の心、延岡に学ぶ

1/9 ミャンマーのホテル経営者ら

延岡市と交流が進むミャンマー第2の都市マ



浴衣姿で茶道を体験したミャンマーのホテル経営者一行（延岡市大貫町のかわまち交流館）

ンダレーのホテル経営者らが3日から県内を訪れ、観光地の視察や日本の文化体験などを通して

お接待の心を学んだ。ミャンマーは、観光目的で入国する日本人のビザを今年9月末まで試行的

に免除している。昨年11月、延岡・ミャンマー友好会（清本英男会長）がマングラレーを訪れた際、ミャンマーホテル経営者協会のマングラ

レー地区会員と意見交換があり、観光分野に特化した訪日研修の要望があっていた。来日したのは、マングラレー地区のホテル経営者や従業員ら26人とミャンマー日本人材開発センター（MJIC）の3人。宮崎市から延岡市に移動した4日は、行徳山の麓にある谷平興二・延岡



満開の桜の下で野だてを楽しんだ（延岡市行徳町）

観光協会代表理事の自宅を訪ね、満開の桜の下で野だてを楽しんだ。MJICのタンタンアウンさん（55）は「ミャンマーにこんなきれいな桜はない」と話し、日本の春を満喫していた。

この後、エンシティホテル延岡で行われた意見交換会では、谷平代表理事が「延岡は美しい自然

やおいしい食べ物があるが、一番の宝物はおもてなしの心を持った市民」と紹介。高橋勝栄・常務理事は「市街地から30分以内で海山川の別世界に行けるのは延岡だけ」とアピールした。日向市観光協会は動画を使って馬ケ背などの観光地やひよっこ踊りをPRした。一行は5日、島野浦島周辺のクルージングや陶芸、着物の着付けなどを

体験。6日は高千穂町を視察した。

マングラレーから約1時間30分ほど離れたシャン州にある高原観光地ピン・ウー・ルウィンでホテルを営むキンマウントウエさん（51）は、施設を日本風のイメージとし、焼酎や刺身などの和食も提供しているという。

「延岡は自然がきれいだし、新鮮な食材もそろっている。ピン・ウー・ルウィンもミャンマーの軽井沢と呼ばれ、フレッシュな空気が食材がある。延岡を参考にもっと頑張り、ミャンマーのオンリーワンを目指したい。また延岡に来たいし、延岡からもミャンマーにぜひ来てほしい」と観光面での交流が深まることを期待していた。